

平成21年5月1日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18520617
研究課題名（和文） 東アフリカ牧畜社会における「稀少資源をめぐる競合ドグマ」の人類学的再検討
研究課題名（英文） Anthropological Review of the Dogma of “Competition over Scarce Resources” among the pastoral societies in East Africa.
研究代表者
曾我 亨（SOGA TORU）
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：00263062

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学 ・ 文化人類学・民俗学

キーワード：生活・生態研究、資源紛争、民族紛争、希少資源、競合、ガブラ、避難民

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、東アフリカ牧畜社会における民族の性質の変質をあきらかにすることである。これまで、東アフリカ牧畜社会における民族紛争は、政治家、マスコミ、さらには研究者によって「稀少資源をめぐる紛争」として理解されてきた。けれども、ナショナリズム運動が盛んになる1960年代以前において、牧畜民は必ずしも稀少な資源をめぐる競合しなかった。むしろ民主化が盛んになってから、政治的権利の獲得を目指す「民族エリート」たちが牧野の人々に「他民族が放牧地や水場などの生態資源を奪ってしまう」と吹き込み、民族を「自民族の利益を追求する主体」に作り変えてきたのである。本研究は、1960年以前の資源をめぐる民族関係を復元し、生態資源をめぐる異民族の共有の仕組みを明らかにすることで、「稀少資源をめぐる競合」ドグマを批判的に検討していく。

2. 研究の進捗状況

(1) 2006年6月、私が調査対象としていた牧畜民ガブラ・ミゴは突如、民族紛争に巻き込まれ、避難民になってしまった。これにより、当初予定していたエチオピア国内での調査は不可能になってしまい、急遽、ケニアで聞き取り調査をおこなった。紛争の結果、当初、予定していた枠組での調査は難しくなったが、本研究が対象としている「稀少資源をめぐる紛争」ドグマの批判的検討という目的には、より詳細で十分なデータ（とくに政治家に代表される民族エリートの振る舞いなど）が得られることになった。

(2) その後、牧畜民ガブラをめぐる政治的

環境には一定の改善が見られ、エチオピア国内での調査が可能になった。そこで2007・2008年度には、2006年度の結果も踏まえ、1960年以前の調査もおこないつつ、同時に2006年の生々しい記憶についても聞き取り調査をおこなった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 紛争が生じたため、当初予定していた一次的生態資源（家畜）の量的把握については調査が不可能になってしまった。その一方で、二次的生態資源（水場、牧草地、畑）をめぐる利用調査については、当初、予定していた以上に充実した調査をおこなうことができた。また近隣民族ボラナとガリについても、2006年に紛争が生じたことで、より一層、詳しいデータを得ることができた。紛争による負の側面もあったが、それ以上に得られた正の側面を勘案すると、目的の達成度はおおむね順調といえる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 治安の悪化が原因で、一次生態資源（家畜）についての聞き取りは中断しているが、これは牧畜民の「伝統的」略奪の直接的対象である家畜をあつかうものであり、非常に重要である。今年度はさらに治安が回復するという見通しがあるので、データ収集をあきらめるのではなく、粘り強く集めていきたい。

(2) 1960年以前の生態環境の利用についての現地調査はこれまで通り継続する。

(3) 2006年度におきた民族紛争についての聞き取り調査は、政治学者を中心に調査が進んでいるので、本研究においては差異

化をはかるために、より自然資源との関係に焦点をあてて進めていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① Toru Soga, Changes in Knowledge of Time among Gabra Miigo Pastoralists of Southern Ethiopia. *Nilo-Ethiopian Studies*. 10. pp.23-44. 2006 査読有
- ② 曾我亨、歴史への生態人類学的接近、*アフリカ研究*、68、pp. 128-131、2006 査読無
- ③ 曾我亨、過去を写生する-歴史への生態人類学的接近法-、*アフリカ研究*、69、pp. 121-136、2006 査読有

[学会発表] (計4件)

- ① 曾我亨、牧畜民として、ゲリラとして、難民として生きた 1970 年代、第 42 回文化人類学会研究大会、2008 年 5 月 1 日、京都大学
- ② 曾我亨、津軽とエチオピア、飢餓の経験、第 17 回日本ナイル・エチオピア学会公開シンポジウム、2008 年 4 月 19 日、弘前大学
- ③ 曾我亨、霊長類学と人類学:稀少資源をめぐる競合ドグマをめぐる、第 2 回人類学関連学会協議会合同シンポジウム、2007 年 7 月 16 日、滋賀県立大学
- ④ Toru SOGA, Sharing System of the “ Scarce Resources ” in Southern Ethiopia. International Conference for Ethiopian Studies, 2007 年 7 月 4 日、トロンハイム大学

[図書] (計4件)

- ① 作道信介、近代化のフィールドワーク、pp. 18-35、2008、東信堂
- ② 福井勝義、(講座世界の先住民族) サハラ以南アフリカ、pp. 161-182、2008、明石書店
- ③ Sun, Xiaogang, *Mobility, Flexibility, and Potential of Nomadic Pastoralism in Eurasia and Africa*. pp. 137-139, 2007, ASAFAS, Kyoto University.
- ④ 松井健、自然の資源化 (資源人類学 第6巻)、pp. 205-249、2007、弘文堂